

霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台

地域火山監視・警報センター

鹿児島地方气象台

＜噴火警戒レベル3（入山規制）が継続＞

22日に新燃岳で噴火が発生し、その後も噴火活動が続いています。

28日に韓国岳山頂から実施した現地調査では、火口の北側に降灰が堆積したような領域が認められ、周辺より高い温度であることを確認しました。新燃岳西側斜面の割れ目付近の地熱域は、前回（5月7日）の観測と比較して拡大していました。

また、本日（30日）鹿児島県の協力により実施した上空からの観測では、新燃岳火口内の北東側で列状に並んだ複数の火孔を確認しました。

【防災上の警戒事項等】

弾道を描いて飛散する大きな噴石が新燃岳火口から概ね3kmまで、火砕流が概ね2kmまで達する可能性があります。そのため、新燃岳火口から概ね3kmの範囲では警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

2011年と同様に爆発に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

○ 活動概況（図1～5）

22日に新燃岳で噴火が発生し、28日17時23分には噴煙が最高で火口縁上1,600mまで上がりました。噴火は本日（30日）15時現在も継続しています。

28日、韓国岳山頂から実施した現地調査では、火口内北東側から乳白色の噴煙が火口縁上800mまで上がり南東に流れていました。また、火口外の北側に降灰が堆積したような領域が認められ、周辺より高い温度であることを確認しました。新燃岳西側斜面の割れ目付近の地熱域は、前回（5月7日）の観測と比較して拡大していました。

また、本日、鹿児島県の協力により実施した上空からの観測では、新燃岳火口内の北東側で列状に並んだ複数の火孔を確認しました。

新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は、2024年10月下旬から増減を繰り返しており、前24時間の地震回数は多い状態で経過しています。火山性微動も時々発生しています。

GNSS連続観測では、霧島山を挟む一部の基線で、2025年3月頃から、霧島山深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められます。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、宮崎県及び鹿児島県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』及び『電子地形図（タイル）』を使用しています。

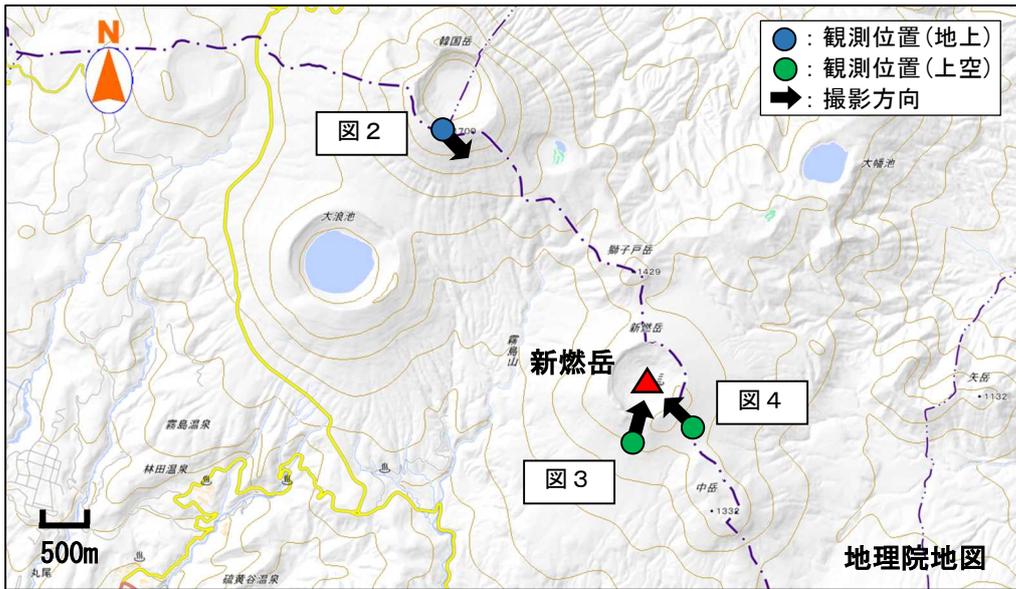


図1 霧島山（新燃岳） 図2～4の観測位置及び撮影方向

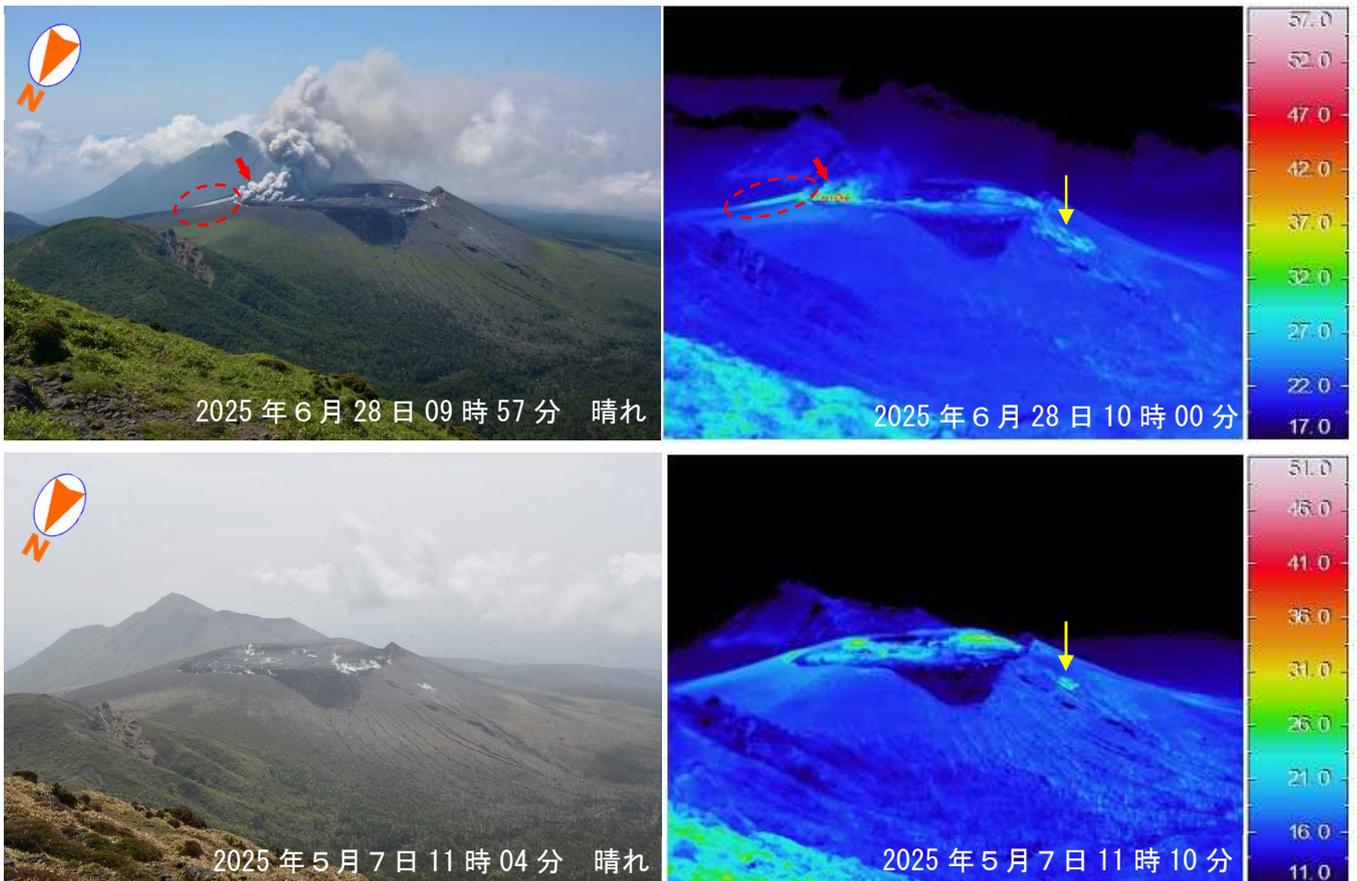


図2 霧島山（新燃岳） 新燃岳火口内及び火口西側斜面の状況（韓国岳山頂からの観測）

- ・火口内北東側から乳白色の噴煙が火口縁上800mまで上がり南東に流れていました。
- ・火口内北東側では噴煙に対応して温度の高まりが確認できました（赤矢印）。また、火口外の北側に降灰が堆積したような領域が認められ、周辺より高い温度であることを確認しました（赤破線内）。
- ・新燃岳西側斜面の割れ目付近の地熱域は、前回（5月7日）の観測と比較して拡大していました。（黄矢印）。

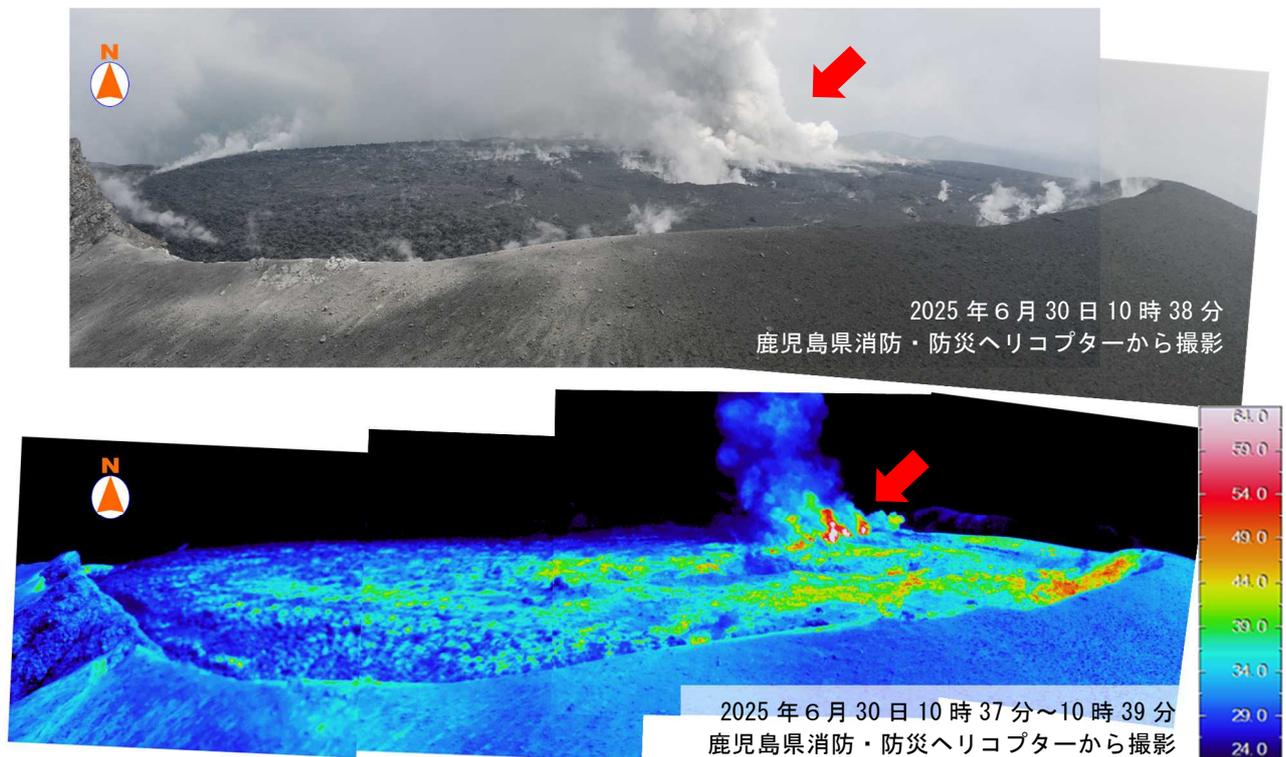


図3 霧島山（新燃岳） 火口内の状況（南側上空から観測）

30日に鹿児島県の協力により実施した観測では、火口内北東側（赤矢印）から乳白色の噴煙が上がり、北西に流れていました。

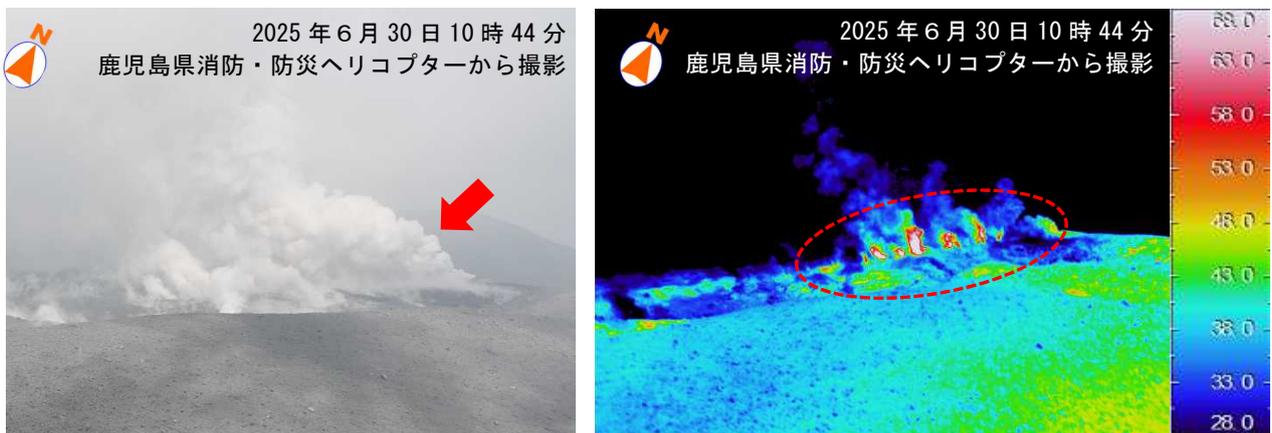


図4 霧島山（新燃岳） 火口内の状況（南東側上空から観測）

- ・30日に鹿児島県の協力により実施した観測では、火口内北東側から乳白色の噴煙が上がっていることを確認しました（赤矢印）。
- ・赤外熱映像装置による観測では、新燃岳火口内の北東側において、列状に並んだ複数の火孔から噴煙に対応した熱域を確認しました（赤破線内）。

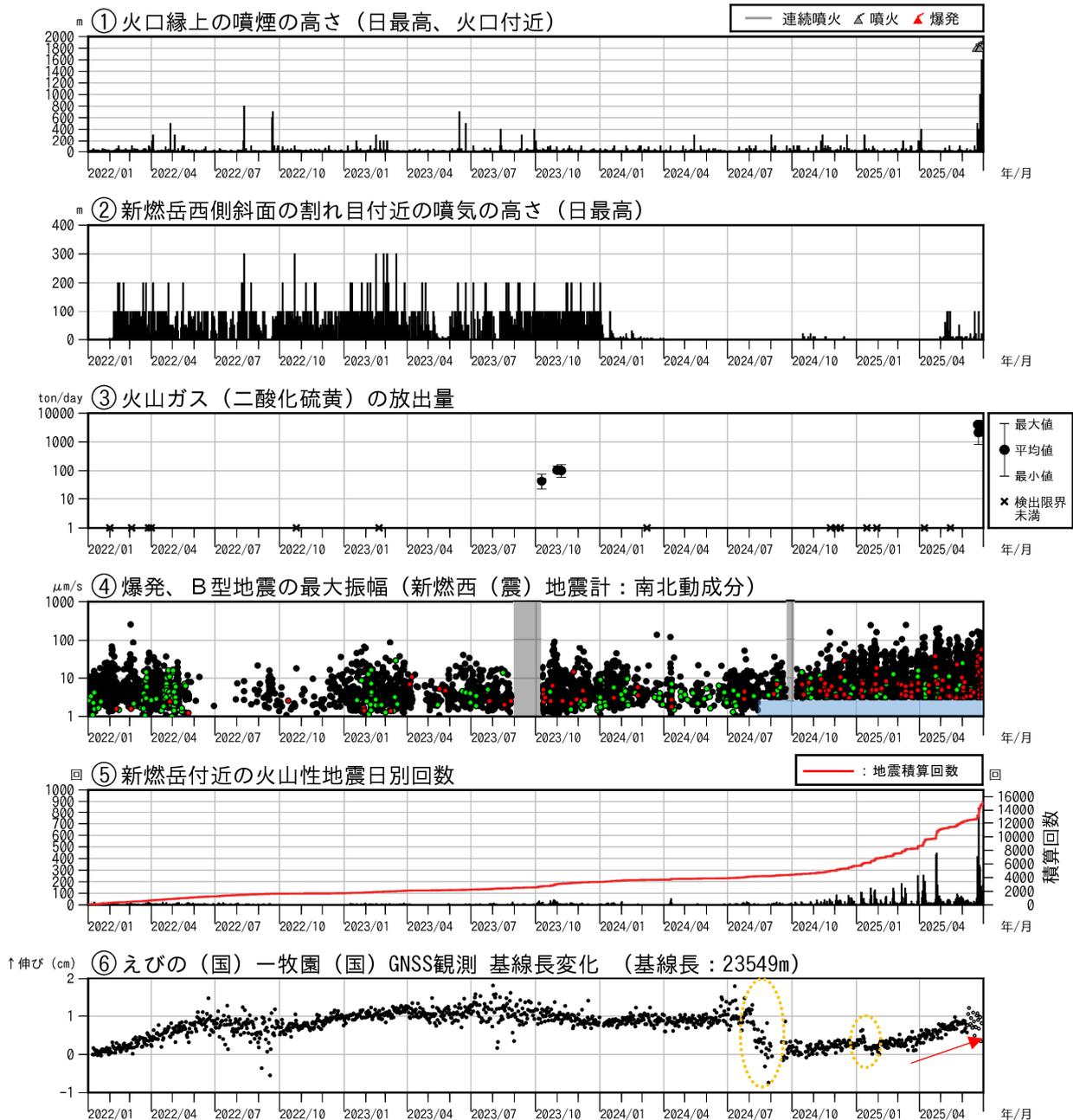


図5 霧島山（新燃岳） 火山活動経過図（2022年1月～2025年6月30日（速報値））

- ・火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は2,100～4,000トンで推移しています。
- ・新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は、2024年10月下旬から増減を繰り返しています。
- ・GNSS連続観測では、3月頃から、霧島山を挟む一部の基線で霧島山深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められます（赤矢印）。

④の灰色の期間は、新燃西（震）観測点のデータが欠測となっている期間です。

④の青色の領域は、新燃西（震）観測点での計数基準未満のため振幅を検測していない領域です。

⑥の2025年5月上旬以降のデータは速報的な解析結果であり、再解析により修正されることがあります。

⑥の橙色破線内の変化は、日向灘の地震（2024年8月8日、2025年1月13日）による変動です。

※新燃岳南西観測点の機器障害により、新燃西（震）観測点、霧島南（震）観測点及び高千穂河原観測点で計数している期間があります。

※新燃岳南西観測点が2024年8月16日から障害のため、新燃西（震）観測点南北動成分の3.0 μm/sを計数基準としています。

